

研究・調査報告書

報告書番号	担当
407	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Alcohol intake, insulin resistance, and abdominal obesity in elderly men. 老年男性の飲酒、インスリン抵抗性と腹部肥満との関連	
執筆者	
Risérus U, Ingelsson E.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Obesity (Silver Spring). 2007 Jul;15(7):1766-73.	
キーワード	
アルコール、インスリン感受性、腹部肥満、インスリン分泌、脂肪分布	
要 旨	
<p>目的：</p> <p>中等度の飲酒は 2 型糖尿病のリスクを減らし、多量の飲酒はリスクを増加させる。インスリン抵抗性、インスリン分泌、腹部肥満は糖尿病の主な予知因子であるが、飲酒との関連についてはデータが少ないため統一した見解がまだなく、今回検討することとした。</p> <p>方法：</p> <p>70 歳男性 807 人からなる地域ベースのコホートにおいて、飲酒がインスリン感受性、インスリン分泌能 (初期のインスリン反応)、もしくは内臓脂肪 (BMI, 腹囲、ウエストヒップ比) と関連があるかについて調べた。飲酒については自己申告とし 7 日間の栄養調査により検証された。多重線形回帰モデルにて喫煙、教育レベル、身体活動度、食事の総エネルギー量、高血圧、糖尿病、中性脂肪、コレステロールを調整して断面的な関連について検討を行った。</p> <p>結果：</p> <p>多重調整モデルでは、自己申告の飲酒量はインスリン感受性や初期のインスリン反応、もしくは BMI と関連はみられなかったが、腹囲 (β 係数 0.77、95%信頼区間:0.15-1.39、p 値 0.02)、ウエストヒップ比 (β 係数 0.006、95%信頼区間:0.002-0.009、p 値 0.003) と正の関連があった。腹囲、ウエストヒップ比との関連は BMI3 分位のもっとも低いところ、つまり体重の少ない群において顕著であった。食事記録からの飲酒量を使って同様の検討を行っても結果は同じであった。</p> <p>結論：</p> <p>本研究では多数の老年者において検討を行ったが、インスリン感受性もインスリン分泌も飲酒とは有意な関連はなかった。しかし多量飲酒と腹部肥満の間には関連がみられ、このことは先行研究において多量飲酒者で糖尿病のリスクが高かったという結果の説明になっている可能性がある。</p>	